

カンボジア市民フォーラム主催 2018年カンボジア総選挙直前セミナー
カンボジアのいま -1993年 UNTAC 総選挙から25年、カンボジア和平を検証する

- 2018/7/8(日)12:30~17:00(12:00開場)
- 上智大学四ツ谷キャンパス 12号館201教室
(日曜日は正門から入場をお願いします)
- 参加費:①カンボジア市民フォーラム会員無料
②一般1,000円 ③学生500円

【概要・趣旨】

【第1部】選挙以外の方法を通じた説明責任をはかる取組紹介

人々の生活に直接かかわる学校や保健センター、地方自治体事務所のサービス。これまでは、選挙や官僚組織内によるコントロールによって改善が行われようとしてきたが、かならずしもうまく機能していない。そのため、最近では子どもを含めた市民がこうしたサービスの評価・改善要求をおこない、行政機関がこれに応えるという「社会アカウンタビリティ」と呼ばれるサイクルをつくらうとする動きがある。このセッションでは、カンボジアにおける取組を報告する。

【第2部】カンボジア2018総選挙に向けて、NGO、政府はどう考え、どう動こうとしているのか。

国連カンボジア暫定統治機構管理下での第1回総選挙(1993年)から25年、カンボジア政治・人権状況は大きく悪化した。2013年第5回総選挙で与野党伯仲の結果が出て以来、政府はNGO法制定、政党法改定等を通して、NGO職員逮捕、英字紙の廃刊、野党「救国党」党首逮捕から同党解党(最高裁判断)に至り、2018年総選挙は、自由・公正選挙の基盤を失った。この間、NGOは、また日本政府をふくむ各国政府、国連はどう動いたのか? どう動くのか?

【スケジュール】

12:30 開会挨拶 丸井雅子氏(上智大学アジア文化研究所研究所員)

<第1部>趣旨説明 宇井志緒利(フォーラム共同代表/立教大学教員)

12:40 報告「社会アカウンタビリティ-カンボジアにおける教育・保健・地方分権分野の取組紹介」

岡島克樹(フォーラム世話人/C-Rights理事/大阪大谷大学教員)

14:00-14:15 休憩

<第2部>

14:15 報告「カンボジアにおける最近の政治・人権状況と総選挙」 熊岡路矢(フォーラム共同代表/日本映画大学教員)

14:40 パネル・ディスカッション「2018総選挙に向けて、NGO、政府はどう考え、どう動こうとしているのか」

パネリスト:伊藤和子氏(ヒューマンライツナウ(HRN)事務局長)/斉田幸雄氏(外務省南東アジア第一課課長)交渉中/
米倉雪子氏(昭和女子大学教員)/佐藤安信(フォーラム世話人/東京大学教員/UNTAC人権担当官)/岡島克樹(第一部の肩書と同じ)

16:20 質疑応答の部

16:50 閉会挨拶 枝木美香氏(アーユス事務局長)

16:55 事務連絡 甲斐田万智子(フォーラム世話人/C-Rights代表理事/文京学院大学教員)



2017/9/3をもって廃刊となったカンボジア・デイリー。最終発行日の表紙は、最大野党の党首逮捕の記事で、カンボジアの悪化する政治・人権状況の象徴となっている。

【お申込み】 事前申込み制。カンボジア市民フォーラムのHP <http://www.pefocj.org/> からです。

【対象】 学生・院生、NGOスタッフ・ボランティア、研究者、メディア、関心ある一般市民など

【主催】 カンボジア市民フォーラム 【共催】 上智大学アジア文化研究所、アーユス仏教国際協力ネットワーク

【助成】 庭野平和財団 【撮影記録協力】 日本映画大学